

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：衛生費 項：環境管理費 目：公害対策費

事業名 核融合科学研究所環境保全対策事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

環境生活部 環境管理課 環境安全係 電話番号：058-272-1111 (内 2836)

E-mail：c11264@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 573 千円 (前年度予算額：2,658 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	2,658	0	0	0	0	0	0	0	2,658
要求額	573	0	0	0	0	0	0	0	573
決定額	573	0	0	0	0	0	0	0	573

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

- 核融合科学研究所 (以下「研究所」という。) は平成 9 年に土岐市に移転され、核融合発電を実現するための基礎研究 (高性能プラズマの生成・閉じ込め) を行っている。
- 平成 25 年 3 月 28 日に締結した「核融合科学研究所周辺環境の保全等に関する協定書」に基づき、地元 3 市 (土岐市、多治見市、瑞浪市) と県とで安全監視委員会 (以下「委員会」という。) を共同設置し、核融合科学研究所が実施する重水素実験(注)を監視する。
- 平成 29 年 3 月 7 日から本格的に重水素実験が開始されており、実験中の監視と周辺環境への影響の評価を行うため、継続的に中性子線及びトリチウム濃度の測定を行う必要がある。

(注) プラズマの性能を向上させるため、通常の水素より質量の大きい重水素を用いてプラズマを生成しようとする実験であり、これにより中性子線 (放射線) とトリチウム (放射性物質) が発生する。

(2) 事業内容

委員会により、研究所の実施する重水素実験の監視と周辺環境への影響等の評価を行う。

- ・安全監視委員会の開催（2回）
- ・中性子線及びトリチウム測定（委員会が実施）

(3) 県負担・補助率の考え方

委員会は県と地元3市が共同で設置するため、県も一定程度の負担が必要である。

委員会の活動経費（負担金）については、県及び地元3市でそれぞれ応分の負担をする。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	161	研究所、有識者等連絡調整旅費
備品購入費	0	
委託料	0	測定機器点検校正業務委託（隔年実施）
負担金	412	委員会負担金
合計	573	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 後年度の財政負担

委員会は、研究所の重水素実験終了翌年度まで設置する必要があり、委員会設置期間中は、委員会開催経費、監視に係る測定経費等が必要となる。

(2) 事業主体及びその妥当性

県と地元3市が一体となって関わることで、地元住民の安全・安心の確保に寄与することができる。

事業評価調書

- | |
|--|
| <input type="checkbox"/> 新規要求事業 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 継続要求事業 |

1 事業の目標と成果

(事業目標)

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

核融合科学研究所（以下「研究所」という。）での重水素実験終了翌年度まで、核融合科学研究所安全監視委員会（以下「委員会」という。）が重水素実験による周辺環境への影響の監視等を行うことにより、周辺住民の不安解消を図る。

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値 (前々年度末時点)	目標	達成率
	(H)	(H)	(H)	(H)	(H)	%
	(H)	(H)	(H)	(H)	(H)	%

○指標を設定することができない場合の理由

事業の性質上、数値目標の設定が困難であるため

(前年度の取組)

・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）

- 平成 28 年 5 月 2 日 第 4 回委員会を開催。
- 平成 29 年 1 月 26 日 第 5 回委員会を開催。
- 平成 29 年 11 月 1 日 第 6 回委員会を開催。
- 平成 31 年 3 月 26 日 第 7 回委員会を開催。
- 令和 2 年 4 月 第 8 回委員会を開催（書面開催）。

(前年度の成果)

・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果

第 3 期目の重水素実験後、安全監視委員会を書面開催した。委員会では重水素実験が安全管理計画のとおり実施され、研究所が行った中性子及びトリチウムのモニタリング結果並びに委員会として測定した結果に異状はなく、周辺環境への影響はないとの認識で一致した。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い △：必要性が低い 	
(評価) ○	県内に設置された研究所の周辺住民の安全・安心を確保するため、監視体制を確立することは必要性が高い。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおりまたはそれ以上の成果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない 	
(評価) ○	監視、確認することにより研究所の安全体制について改善されており、一定の成果がある。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている △：向上の余地がある 	
(評価) ○	関係市との役割分担により効率化が図られている。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 重水素実験の監視及び周辺環境への影響の評価等を継続的に行う必要がある。
--

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 平成 29 年 3 月 7 日から本格的に重水素実験が開始されているため、周辺住民の関心はかなり高く、引き続き県として安全・安心の確保に取り組む必要がある。
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	【○○課】
組み合わせて実施する理由や期待する効果 など	